

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2770105738
法人名	社会福祉法人 大阪福祉会
事業所名	ハピネス陵南グループホーム
所在地	大阪府堺市百舌鳥陵南町2丁目662番 (電話) 072-276-1118

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成19年11月27日	評価確定日	平成20年1月11日

【情報提供票より】(平成19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	18 人	常勤 15 人, 非常勤 1 人, 常勤換算16.2 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り		
	3 階建ての	2 階 ~	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	有() 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有() 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,600 円			

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	27 名	男性	3 名	女性	24 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	13 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.2 歳	最低 68 歳	最高 102 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ハピネス金岡診療所、阪和第二泉北病院、ナカイデンタルクリニック
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

特養を母体を持つ堺市北区の地域に根ざしている社会福祉法人が開設するこのホームは、1階にデイサービスがあり、全館バリアフリーになっています。窓も多く明るいホーム内で入居者は毎日レクリエーションを行っており、広いベランダでは、花や野菜を育てたり、一人ひとり楽しみ事や、役割を持って過ごされています。職員は食事に関しても入居者に楽しみを持ってもらえるように手作りを大切にしており、また、バイキング形式やお弁当にするなどさまざまな工夫がされています。3ユニット間の連携も良く、カンファレンスでは別ユニットの職員が参加することで、新たな気づきとなりケアに活かしています。医療面では1週間に1回の医師の往診、2回の看護師の訪問やデイサービスの看護師とも連携が図れており、安心した体制となっています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価についての改善点については会議にて職員間で話し合い、取り組まれています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価は日々のケアを振り返る良い機会としており、今回の自己評価票については各ユニットリーダーが職員より意見の聴き取りをして、管理者がまとめて作成されています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	入居者、家族、市担当者、知見者が参加する運営推進会議ではグループホームでの入居者の生活状況、行事の報告の他、外部評価結果についてや家族アンケートについても話し合ったり、敬老会のイベントと一緒に実施しています。また、市担当者から他のグループホームの情報を聞いて職員間で検討・実施をし、サービスの向上に活かしています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族がホームに来られた際には話しやすい雰囲気づくりを心掛けています。ホームの玄関にご意見箱を設置したり、書面にて苦情窓口を明確にしています。また、家族会やアンケートの実施を通して意見や希望を表せる機会を設け、運営に反映しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	毎年地域の祭りである布団太鼓の見学に行っており、除々に地域の方と親しくなり、良い関係作りができ、散歩や買物を通して交流しています。また、近隣の保育園より歌を歌いに来てもらったり、手紙をもらったりの交流をはじめ、小学校の運動会見学や中学校の職業体験の受入れなど積極的に行っています。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人のグループホームの理念である「愛されるホーム、心ある介護」を掲げ、地域の中での暮らしを支援しており、方針として社会活動への参加も盛り込んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議や申し送り時、日々の会話の中でどのようにすれば愛されるホームになるかについて管理者は職員と話し合っている。家族やボランティアの方が来訪した際の雰囲気づくりから取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎年地域の祭りである布団太鼓の見学に行き、除々に地域の方と親しくなり、良い関係作りができ、散歩や買物を通して交流している。また、近隣の保育園より歌を歌いに来てもらったり、手紙をもらったりの交流をはじめ、小学校の運動会見学や中学校の職業体験の受入れなど積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価は日々のケアを振り返る良い機会としている。前回の評価についての改善点については会議にて職員間で話し合い、取り組まれている。今回の自己評価票については各ユニットリーダーが職員に聴き取りをして、管理者がまとめて作成されている。	○	自己評価については全職員で取り組む事が期待される。また、ユニット毎にそれぞれ作成する事が望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、家族、市担当者、知見者が参加する運営推進会議ではグループホームでの入居者の生活状況、行事の報告の他、外部評価結果についてや家族アンケートについても話し合ったり、敬老会のイベントと一緒に実施している。また、市担当者から他のグループホームの情報を聞いて職員間で検討・実施をし、サービスの向上に活かしている。		

ハピネス陵南グループホーム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市担当者とは相談できる関係づくりができています。また、グループホーム連絡会での研修に地域包括の方に講師に来て頂いたりしています。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族がホームに来られた際や電話、2ヶ月に1回発行している「じゃがいも通信」を郵送し、暮らしぶりを報告している。また、金銭管理についても定期的に出納帳と領収書を送付している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族がホームに来られた際には話しやすい雰囲気づくりを心掛けている。ホームの玄関にご意見箱を設置し、書面にて苦情窓口を明確にしている。また、家族会やアンケートの実施を通して意見や希望を表せる機会を設け、運営に反映している。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内の異動については、入居者との馴染みの関係を考慮して最小限に抑えている。職員交代の際は入居者の情報を伝えて、入居者に影響の少ないように配慮している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間計画を立てて、テーマを決めて職員が講師となる内部研修を毎月実施したり、外部より講師を招いて研修している。また、外部研修についても出来る限り参加し、受講後は伝達研修を行っている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地区内のグループホーム連絡会に参加し、研修や情報交換を行い、サービスの向上に活かしている。今後職員の交換研修の計画もある。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスの利用開始時は家族と相談しながらホームでの暮らしに慣れてもらうようにしている。	○	見学の受入れや法人特養でのショートステイの体験入所を支援をしているが、今後はホーム内で半日体験や1日体験を検討している。入居者が職員やサービスの場に徐々に馴染みながら入居に移っていけるようなさらなる支援が期待される。
」					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	花や野菜の育て方や昔の歌、掃除の仕方等を教えてもらったり、テレビを観て一緒に楽しみながら過ごしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の一部を使用し、入居者との日々会話などから一人ひとりの好みや得意な事を把握し、職員間で話し合いながら検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者、家族からは日々の会話で意見や希望を聞き、他ユニットからも参加するカンファレンスにて職員の意見を反映したケアプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは基本的に3ヶ月毎に見直ししている。日々ケアプランにそった実施表を記録しており、状態に変化があった場合はカンファレンスを開催して現状に即したケアプランを作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	職員による通院介助や買物などの個別外出、早期退院に向けた働きかけ、複数医療機関による往診など柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に相談して、主治医を決めている。医療機関の医師による週1回の往診、看護師による1週間に2回の健康管理があり、往診の際はデイサービスの看護師が同席している。また、必要に応じて皮膚科、歯科の往診もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時にターミナルケアについて法人の指針を説明し、同意を得ている。まだターミナルの例はないが、本人、家族の意向を把握しながら医師と連携をとる体制がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉掛けや対応について職員は振り返るようにしており、管理者よりその都度注意もしている。また、記録物などの個人情報については鍵のかかるところで保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のリズムづくりとしてある程度の流れはあるが、一人ひとりのペースや希望を大切にしている。		

ハピネス陵南グループホーム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しいものとなるように定期的に入居者の希望にそった献立づくりや、職員と一緒に準備や後片付けをしている。職員は入居者と同じものを食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望に合わせての入浴がなされており、声掛けの工夫やタイミングを合わせて支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ベランダのプランターで花や野菜を育てたり、習字やぬり絵、歌、裁縫、調理や掃除、パンや新聞を他ユニットへ配達するなど、役割や楽しみ事を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望にそって散歩に出掛けたり、ドライブをしたり、車椅子でも買物に出掛けている。行事として運動会の見学、公園への遠足、農園への芋掘りなど出掛ける機会が多く設けられている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	グループホームの玄関、各ユニットの入口は鍵を掛けていない。エレベーターにロックが掛かっているが、入居者の様子を察知し、できるだけ希望に添い外に行くことができるように支援したり、閉塞感のないようユニット間の行き来ができるよう支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署による避難訓練の実施や職員会議や申し送りの際には避難経路や消火器具の場所確認もしている。夜間想定避難訓練も実施している。	○	今後、地域との協力体制を構築されることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算されたバランスのとれた、献立を支援しており、毎食、水分や食事の摂取量を記録している。また、体調や一人ひとりの状態に合わせた食事形態の提供をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは窓が多くとられておりとても明るく、季節感のある花や入居者の作品を飾っている。思い思いに過ごして頂けるよう玄関にイスを置いている。夏の日差し対策にはすだれを使用調整している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れている家具やテレビ、足踏みミシン、人形などの小物を飾り、入居者の好みに合わせた居室づくりを家族と相談しながら支援している。		